



上田市自治会連合会会報

令和5年9月16日発行

【第8号】

発行:上田市自治会連合会

国連のグテーレス事務総長は、「地球は沸騰化の時代」に入ったと述べました。上田市は7月下旬から13日連続で猛暑日が続ки、8月中旬には全国で一番暑い日が観測されました。一年を通じて晴天率が高い上田市、とはいえ農産物や日々の生活を脅かす猛暑は憂慮に堪えません。

上田市においては、令和3年2月「上田市気候非常事態宣言～光・緑・人の力で目指す2050ゼロカーボンシティうえだ～」を表明し、2050年までに脱炭素社会の実現を目指すとしています。私たち市民も次世代の為、各自治会、各ご家庭等で話し合いの機会を設け、直ちに出来ることから始め、更には拍車を掛けていかなければと痛感させられる日々です。

さて、3年余のコロナ禍を経て、感染症法上5類に分類されたとはいえ、未だコロナが終息したとはいえぬ中、市内各所において夏まつり祇園祭等が華やかに開催され、多くの人々が地域一体となって今日を迎えられたことは、誠に喜ばしい事と感じています。

老若男女、誰もが生まれ育った地域を愛し・守り・育てていく、正に地域自治会活動が必要な所以かと思ひます。

上田市自治会連合会では現在、昨年度に引き続き「上田市等から各自治会・各地区連に選任・選出を求められる各種委員」について、専門の自治会選出委員検討協議会を設置し、関係各課のヒアリングを実施し、形骸化されたものから時代に即したものとへ転換すべく議論を重ねております。

ご承知のとおり、単に委員の廃止を求めるのではなく、上田市政発展の為に必要なものであれば、自治会として当然の事ながら各地区連としても積極的に協力していくとの姿勢で臨んでおります。

市民の皆様には、引き続き自治会活動に対し、格段のご理解とご支援を賜りますようお願い申し上げます。



上田市自治会連合会会長

中村 彰

令和5年度各地域自治会長視察研修の実施



▲上田地域自治会視察研修先・高座クリーンセンター施設入口

令和5年度は6月初旬から7月下旬までの間に、上田・丸子・真田・武石の各地域において、自治会長を対象とした視察研修が実施されました。

新型コロナウイルスの感染状況が気になる中、多数の参加をいただき、先進地などの視察研修を行い、知識や理解を深めるとともに、自治会長相互の情報交換もでき、有意義な研修会となりました。

各地域自治会長研修視察の報告については、次ページをご覧ください。

上田地域自治会

高座クリーンセンター視察研修（神奈川県海老名市） 6月8日(木)・9日(金)実施

上田地域の自治会長視察研修は、資源循環型施設の理解を深めるため、神奈川県海老名市に在る最新鋭の設備機器を備えた高効率ごみ発電マテリアルリサイクル施設である高座クリーンセンター（環境プラザ）を視察研修しました。

焼却により発生する排ガスは、ハイブリットバグフィルターにより有害物質が効率的に除去されることや、焼却による熱エネルギーを利用した発電を行い、電気を内外で使用するほか、売電も行うということです。



▲施設の周囲



また、粗大ごみや不燃ごみは破砕剪断処理を行い、選別機にかけることで鉄分やアルミ分などの資源物として回収し、再利用されるということです。

最新鋭の資源循環型施設は、平野部に建設されているながら、周囲の環境や人の生活を阻害せず、効率的にごみを再資源化する景観や機能を備えており、改めて技術の進歩を実感しました。

丸子地域自治会

防災学習施設視察研修（新潟県小千谷市・三条市） 7月11日(火)・12日(水)実施

丸子地域自治会長連絡会は、新潟県中越地震（平成16年）の被害にあった小千谷市、平成16年・平成23年の二度にわたり大きな水害を経験した三条市の防災学習施設を視察しました。



小千谷市の「おぢや震災ミュージアム そなえ館」では新潟県中越大地震の被害や避難所生活等について、「三条市水防学習館」では豪雨による堤防決壊がもたらした被害について学びました。

展示資料・地震や水圧を体験できる設備を通して、震災や水害の恐ろしさを体感し、防災意識をより高める研修となりました。

真田地域自治会

浜松市防災学習センター視察研修（静岡県浜松市） 6月9日(金)・10日(土)実施

南海トラフ巨大地震がひとたび発生すると、静岡県から宮崎県にかけての一部では震度7となる可能性があるほか、それに隣接する周辺の広い地域では震度6強から6弱の強い揺れになると想定されています。そのような場所に位置し、市民の防災学習や体験の場を提供することを目的として利用されている浜松市防災学習センターを視察しました。

廃校になった小学校の一部を改修した施設内は、「知るゾーン」・「感じるゾーン」・「つながるゾーン」の3つに構成されていました。日頃からどんな備えをしたらよいか、いざというときにどのように対応、行動したらよいかを学ぶことができました。



巨大地震は、千年に一度あるいはそれよりも低いとの楽観的な話もされていますが、この施設での学習を通じて市民の防災意識を高めていきたいとのお話がありました。

広大な面積を持つ浜松市では、津波、土砂崩れ、河川のはん濫など地域によって備えるべき災害の事象が異なっていることから、山間地区、沿岸地区など地域ごとに災害の特性を踏まえた避難行動計画を策定していました。

武石地域自治会

震災遺構仙台市立荒浜小学校（宮城県仙台市） 7月27日(木)・28日(金)実施

自治会長は、地域のリーダーでもあることから、本年は地域の防災をテーマとして震災遺構仙台市立荒浜小学校を視察しました。

ここでは、被災の痕跡を鮮明に残す校舎と、被災直後の様子を示す展示等により津波の威力や脅威を実感できるほか、校舎の被害状況や被災直後の様子を伝える写真などから、荒浜小学校を襲った津波の脅威を知ることができました。また、地震発生から避難、津波の襲来、そして救助されるまでの経過を



写真と映像で振り返るとともに、災害の備えについて学ぶことができました。小学校の屋上へ避難した時の恐怖や不安、避難所の寒さ、救助されるまでどのような気持ちで過ごしたかを思うと、いたたまれない気持ちになりました。

他の場所で起きた災害等を教訓として、日頃からの備え、訓練をしていくことが大切で、避難所での自治会の協力の重要性を改めて認識しました。

自治会選出委員検討協議会の設置（上田市自治会連合会会則第7条に基づく専門委員）

〔設置の趣旨〕

上田市自治会連合会（以下「自治連」）が市政推進を図るために提案した、市、教育委員会、社会福祉協議会等が自治会や地区自治連に推薦依頼している委員の見直しについては、昨年11月17日に開催された市政三者懇談会で協議した結果、16項目中6項目が今年度に持ち越しとなっております。

こうした状況を踏まえ、自治連として納得のいく回答を得るため、引き続き市等と協議し見直しを検討するため、その専門組織（委員9名）として設置しました。

■第5回自治会選出委員検討協議会の開催（関係各課職員同席）〔8月25日〕



〔市政三者懇談会（10月2日開催）の議題〕

自治会選出委員検討協議会が検討した自治会選出の各種委員の見直しに関することを議題とします。

「自治会に加入しましょう。」

いざというときは、自治会が頼りになります。たとえば、災害が起きたときには、隣近所の助け合いが必要です。

日頃からご近所同士の交流を大切にしましょう。

ぜひ、自治会への加入をお願いします。



編集後記

新型コロナウイルス感染症が5類感染症に位置付けられ、信州上田祇園祭など各地域の夏祭りが盛大に開催されました。

今後も各自治会等が感染予防に心掛けながら秋祭りやイベント等を開催するなど、活動が活発化することを期待します。



上田市自治会連合会事務局

E-mail: jjichiren@city.ueda.nagano.jp

TEL 22-4130（直通）
TEL 22-4100（内線）1308
FAX 23-5246